

ワクチン流通の現状と課題

= 第39回 研究開発および生産・流通部会 =

2026年 3月30日

一般社団法人 日本医薬品卸売業連合会

本日のご説明

1 課題の整理と改善の方向性

2 最近のワクチン流通の特徴

3 今後の取組み

課題の整理と改善の方向性

○円滑なワクチン供給を実現するため、流通過程で生じている課題を検証し、当部会において改善に向けた取組みをご検討いただきたい。

課題の整理

1. 生産量と必要量のバランスが崩れた場合に、安定的な流通に支障をきたす。
2. 接種期間中の供給総量が十分であったとしても、メーカーの供給と医療機関の需要との間に時期のズレが生じることで、一時的な需給逼迫が生ずる。
3. 需要予測の難易度が高いため、突発的な需要増が発生した場合の対応が困難となっている。

改善の方向性

1. 生産量と必要量がリンクするための情報共有の促進。
2. 需給ピークのズレを最小化する枠組みとして、全体的なスケジュールの前倒しの検討。
3. 行政による最低限の備蓄確保や、円滑な流通のための環境整備の検討。

最近のワクチン流通の特徴

- 最近のワクチン流通の特徴は、超低温での温度管理を求められる製品が増えていることである。医薬品卸は、流通段階において温度逸脱が生じないように、超低温対応の保管・輸送カート等を用意するほか、リアルタイムでの温度管理を行うための温度ロガーの設備など、コールドチェーンを実現するための様々な投資に対応しなければならない。
- 今後増えてくることも予想される超低温での温度管理を求められるワクチンはもとより、医薬品卸として、品質を保証したワクチン流通が実現できるよう、引き続き対応していく。

医療機関や薬局に供給される医薬品は、出荷・保管・販売といった工程において適切な品質管理が求められています。

GDPガイドラインは、医薬品の流過程において品質を保証するための適切な手法について定めた規定です。

GDPでは、特に次の3つがポイントとされています。

- 品質の確保・温度管理
- 流過程の適正管理
- 偽造医薬品対策

医薬品卸は、GDPガイドラインを遵守し、安心かつ安全な医薬品の適正流通に努めています。



マイナス190度以下での保管が必要な医薬品もあり、高いレベルの品質管理が求められています。



超低温対応の保管・輸送用カート



超低温対応の保管・輸送容器

当連合会HPより

今後の取組み

- 国民の期待に応える医療サービス提供との視点で、行政・医療機関・メーカー・医薬品卸が一体となって、効率的なワクチン供給の仕組みを検討することが重要である。
- SDGsの観点からも、“ワクチン廃棄による資源ロス”を最小化するという共通意識を徹底する必要がある。
- 接種を希望される国民に対して、円滑にワクチンを供給できるよう、医薬品卸はこれからも努力してまいります。